

5. 鳥海山の火山ハザードマップ

鳥海山の噴火の特徴

① 猿穴～新山付近のどこかから噴火をし、熱い噴出物が雪を解かして「融雪による火山泥流」や降灰後の「降雨による土石流」の発生が予想されます。
 ② 大規模な活動の場合には、溶岩流が流れ出す可能性も考えられます。

鳥海山の火山ハザードマップは次のような条件で作成しました。

① どこで噴火が起きやすいでしょう？

想定した火口ゾーン

鳥海山の火口は1ヶ所だけではありません。過去の噴火をみると、現在の山頂付近から猿穴付近にかけて西北西～東南東方向に火口位置が分布しています。この中のどこかから次の噴火は起こるでしょう。一番可能性の高いのは新山付近です。

② 噴火するとどんな事が起きると考えられているのでしょうか？

噴石

噴石による被害は火口周辺に限られます。鳥海山においては、明確な実績がないので想定火口ゾーンを囲んで4kmの細長い区域としています。噴火がはじまるとその周辺は危険なので、近寄らないようにしましょう。

降灰

噴火した場合には、降灰(火山灰が空から降ってくる)があるでしょう。溶岩流の1割の規模の火山灰が降ると想定しています。

降灰は、風によって運ばれます。鳥海山付近の高度2,500mでの平均風速のときに、降り積もる範囲と厚さをハザードマップに表示してあります。また、最も頻度の高い(可能性が高い)風向きでの事例もハザードマップに表示してあります。

溶岩流

鳥海山では、溶岩流は過去約200年間は発生していませんが、今後も大規模な噴火の場合には、発生する可能性があります。

この火山防災マップでは、過去2,500年間の実績から得られた1回当たりの平均的な溶岩量を対象に想定しています。

山に雪の積もった時期「融雪による火山泥流」

火山灰が積もった後数年間「降雨による土石流」

過去数百年間の記録にみられる噴火のうち、水蒸気爆発が発生した場合に「火山泥流」や「土石流」(11ページ参照)が起こる可能性があります。この火山防災マップでは、いずれも1801年の噴火と同程度の規模を想定しています。

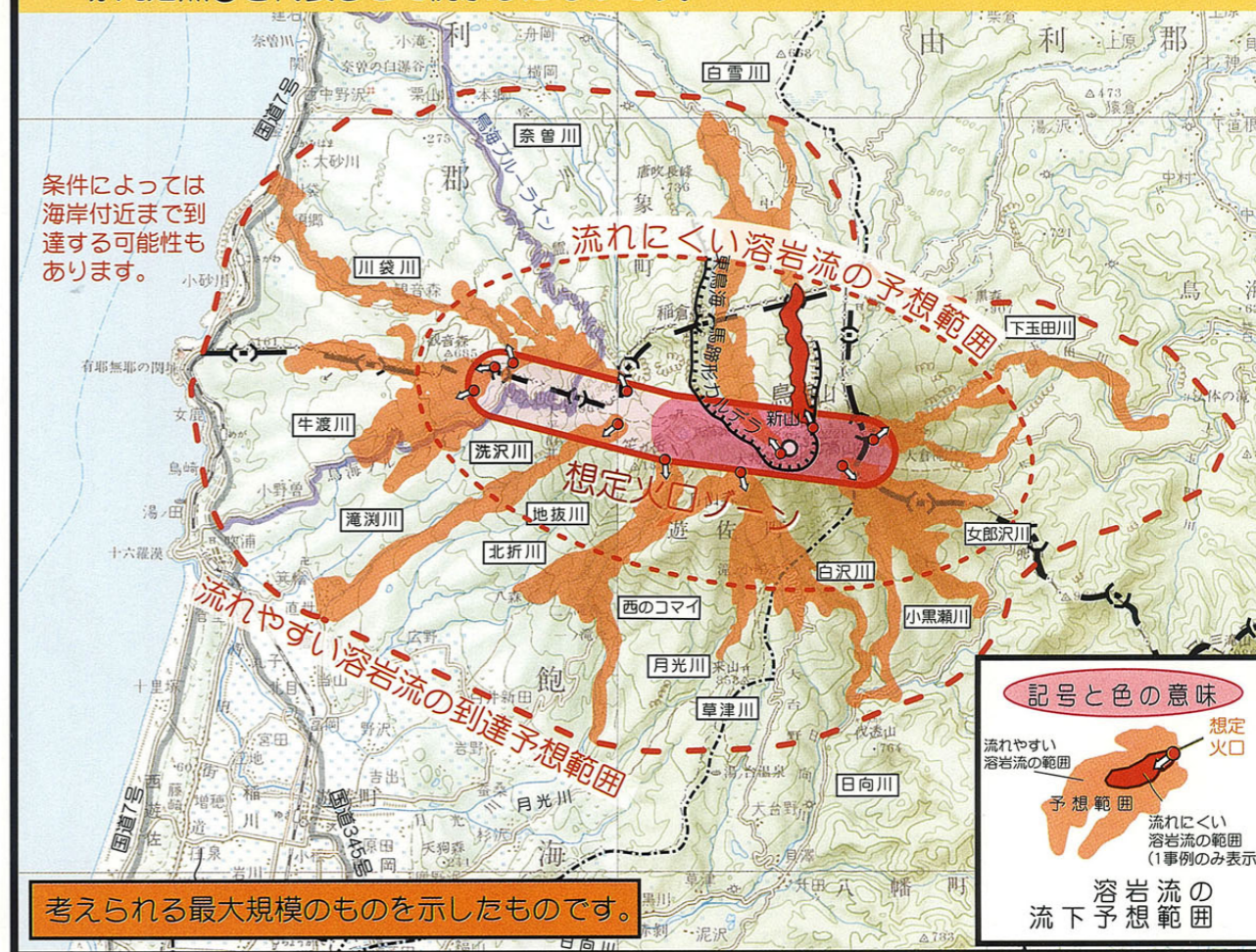
※新しい事実がわかった場合や地形が変わった時などには、見直しをすることがあります。

Q6の答え:何年後に噴火するかはわかりません。でも、100年以内にはきっと噴火する可能性が高いでしょう。

鳥海山のハザードマップ

大規模な溶岩流噴火の場合(想定)

図に示した11ヶ所の溶岩流の流下範囲は、火口ゾーンの中から任意に選択した赤丸地点●を代表させて例示したものです。



考えられる最大規模のものを示したものです。

以下の点に注意してご覧になって下さい。

- すべての火口から同時に噴火する訳ではありません。たいていは「想定火口ゾーン」とした中の1地点(あるいはその近辺の1帯)からだけ噴火します。
- 溶岩流は噴火活動が大規模になったときに流れ出す可能性があるものです。噴火の初期には、降灰や噴石を中心とした活動が先行すると考えられます。
- 噴火は、数週間から数ヶ月続くことが考えられます。

次のページにもハザードマップがあるのでよくみてみよう

